

中国語で誤解をしないように (第1回)

(はじめに)

「英語は苦手だけど中国語は同じ漢字なので見れば何とか理解出来る」と考えておられる人が多いようです。確かに中国語のことを中国語では「中国話」と言い、見ただけで何となく分かります。これは同じ漢字を言葉の中に使用しているからで、古代字を持たなかった日本語を漢字を使って文書としたなごりです。古い文書として古事記や日本書紀が書かれた時代のことです。その頃からの時代の変化があり、言葉の使い方もだいぶ変わってきたようで、中国語と日本語の間に「同形同義語」と「同形異義語」が発生してしまいました。

一つの例として「私は貴方を告訴します」を中国語にそのまま「我告訴×」と訳してしまうと、これは「貴方に伝えます」との意味になることは皆様をご承知の通りです。

「中国語で誤解をしないように」のコラムでは、このような用例を取り上げてみたいと思います。なおご参考までに申し上げますと、言語学的に日本語は蒙古語や朝鮮語と同じウラルアルタイ語系」に属しており、一方中国語は「中国語系」で全く別なものです。

なおこのコラムは光生館「日中同形異義語300」や「中国巨龍」の記事を参考とさせて頂いています。

・
・
・

中国語で誤解をしないように (第2回)

「油断一秒・怪我一生」

ある見慣れた完全な日本語の文章の意味する所を、中国の人が見ると全く異なる意味となるケースがあります。その一つとして「油断一秒・怪我一生」と言う標語があります。

中国の訪日代表団が日本の工場を参観して、工場内で「油断一秒・怪我一生」と言う標語を見ると日本の工場では工員に対して非常に厳しい要求を出しているとたいへん驚くでしょう。

中国語で「油断」と書くと中国人には「油を断つ」、即ち「油を止める」とか「油を切らず」としか理解出来ません。日本語の「油断する」は中国語で「大意」「粗心大意」等の表現があり、また「怪我」や「怪我する」との中国語は「傷」及び「受傷」です。一方「怪」には動詞として「怪しむ」との意味と共に「咎める」とか「悪く思う」との意味があります。

以上を総合すると「油断一秒・怪我一生」は「油を一秒断ったら、私のことを一生咎めなさい」、即ち「若し私が油を一秒止めたら、私のことを一生責めて下さい」との意

味になり、全く違った意味となってしまう次第です。なお「油断一秒・怪我一生」は標語的に中国語で言うと「大意招来一生大傷」となるでしょう。

・
・
・

中国語を誤解をしないように (第3回)

「大意」

前回「油断一秒・怪我一生」で、中国語で油断するという表現は「大意」であると説明しました。日本語の「大意」には「この文章の大意は……です」と文章のあら筋の意味しかありません。中国語では「概要」「大意」と「大意」もあら筋として使われますが、それ以外に日本語の「いかげん」や「注意が足りない」と併せて「うっかりする」「油断する」との意味があります。日本語で「油断大敵」との言葉がありますが、これは中国語では「粗心大意害死人」となります。

仕事の際に良く使われる中国語として、「×不要大意」がありますが、これは「油断をしてはいけません」とか「ちゃんと注意してやりなさい」との意味であり、また「千万不能大意」という言葉もあり、これは「絶対に油断をしてはいけません」とか「絶対にミスをしてはいけない様」と念を押す場合に使われます。

なお日本語の「油断」は不注意であること意味ですから、中国語では「大意」と併せて「粗心大意」「麻痹大意」「疏忽大意」と表現し、また当然「不注意」も使われます。

・
・
・

中国語で誤解をしないように (第4回)

「汽車」

中国語では自動車のことを「汽車」と言います。タクシーのことは「出租汽车」、そして料金を払って乗る路線バスを「公共汽車」、バスの停留所を「汽车站」と言います。中国語で(食べる)パンのことを「面包」と言いますが、車のバンのことを食パンの形から連想して「面包車」と言い、大型バンは「大面包車」、小型バンを「小面包車」と言います。さらに大きい「大型バス」は「大客车」あるいは「大巴」、「小型バス」のことは「小客车」あるいは「中巴」といいます。自動車のことを汽車と言うのは、ガソリン(汽油)を燃料として走っているからです。

路面電車のことは「電車」或いは「軌道電車」で、面白いのは日本語のトロリーバスも電気で動くので電車と言っています。

同じ理由で汽車のことを蒸気機関車が火を焚いて走るので中国語では「火車」と言います。今ではディーゼルエンジンで走る汽車も存在しますが、それも纏めて「火車」と言

っています。この点は日本で遠距離列車を汽車と言っているのと同じかも知れません。なお日本語の汽車の語源は蒸気で走るからとのことは皆様もご存じの通りです。

日本語にも「火車」があり、これは経済状態が非常に悪いことを表現する「火の車」ですが、この語源は地獄にある死者を地獄に運ぶ為の「火の燃えている車」です。

・
・
・

中国語で誤解をしないように (第5回)

「火」

前回日本語の「火車」のお話をしました。広辞苑で「火の車」を見ますと「地獄にあると言われている火の燃えている車、獄卒が罪ある死者を地獄に送ると言う」と説明されていました。

「火」の意味は日本語も中国語も同じで、火事が起こる(発生火災)、火が燃える(火燃焼)、彼は火のように怒る(他大発雷霆)等の表現があります。

中国語にはいろいろな形で「火」と言う字を使用しており、現在新しい「火」の使い方も出てきています。かっとするとか頭にくると言う時に「冒火」と言い、発砲するは鉄砲が火を吹くとのことから「開火」です。また料理で「大火」と言うと強火を意味し、また漢方医が脈をとって「火大」と言うとのぼせているとのことを意味しています。

新しい使い方としては絶好調と言う場合に「火」が使われており、この商品の売れ行きが絶好調であると言う場合に「這個商品賣得最火的」と使い、また商売が繁盛していると場合にも、あのレストランは非常に人気がある「那个餐厅特火」と言う表現をして「火」を使っています。

・
・
・

中国語で誤解をしないように (第6回)

「請求」

日本語で「請求する」と言うと、当然の権利として要求するとの意味で使用されていますが、中国語の「請求」は日本語で「何とかお願いします」と相手に何かものを頼む場合に使用します。従って日本語の「請求書」と言う文字を見た場合に、中国人はいろいろなお願いをする「要望書」と理解してしまいます。

日本語の「請求書」のことを中国語では「帳単」とか「付款通知単」と言っており、また「請求権」は「索取権」と、そして領収書のことは「收据」と言っていました。

現在中国では領収書を下さいと言う時に「發票」と言っています。元来「發票」は「発貨票」(インボイス=積荷明細書)の略で、取引に於ける請求明細書を意味するも

のでした。、中国では現在公給領収書（財務局が一連番号で発行する公的領収書）方式を採用しており、税務署は帳簿の憑証としてこの「発票」以外は領収書として認めてくれません。この公給領収書は請求書と領収書がセットされており、一緒に書かれます。レストランから領収書を貰う際に従来は「算帳」とか「結帳」と言っ、領収書を貰っていましたが、現在は「発票」と言う様になり変わり、それが恰も「領収書」を下さいと使われるようになった次第です。

・
・
・

中国語で誤解をしないように（第7回）

「進出」

中国へ行くと「進出口公司」と言う公司とのお付き合いが多くあります。この時の「進出口」は進口（輸入）と出口（輸出）の合成語で「輸出入」の意味です。中国ビジネスではこの進出口と併せて、日本語で「企業進出」と言う言葉が良く使われています。

この「進出」と言う言葉も同形異義語で、中国語では単に「出入り」と言う意味だけですが、日本語の方は「前に進み出る」との意味はありますが、「入る」との意味が全くなく、更に勢力を伸長するためや新分野を開拓するために乗り出すとの前向きに出かけるとの意味を持っています。

従って「日本企業が中国へ進出する」との日本語をそのまま「進出」を使って「日本企業進出中国」と訳すと「日本企業は中国を出入りしている」となってしまう全く意味が通じません。この場合は「日本企業打入中国」と訳します。日本語の「進出」の中国語訳は「打入」「進入」「打進」等が良いでしょう。同じく「从這個門口進出」（この門から出入りする）の意味で「この門から進出する」との意味はなく、出たり入ったりとの両方が含まれていることを注意して下さい。

・
・
・

中国語で誤解をしないように（第8回）

「検討」

中国側と合併に於いて契約条件を話合ってもなかなか纏まらないため、「合併条件に付いて私はもう一度検討しなければならないと考えています」と言う日本語を「就有關合資条件、我想還得再検討一次」と訳すると、聞いた方の中国側は「（申し訳ありませんでした）合併条件について、私はもう一度反省しなければいけないと思っています」と謝られたと理解してしまいます。非常に厳しい合併契約条件の交渉をしている最中に、日本側からこのように謝られたら、中国側はそれ見ろとのことで強硬に自分の条件

を押しつけてくるでしょう。

日本語の「検討」に該当する中国語は、「研究」「探討」「商討」等があります。従って正しい訳文は「就有关合资条件、我想还得再研究一次」となります。

中国語の「検討」は反省するとか自己批判をするとの意味があり、自己批判書や反省書を中国語で「検討書」と言います。中国で文化大革命の時代には一般大衆の面前で自己批判（自我検討）を強制されたり、自己批判書（検討書）を書かされた人が多く出たとされています。

・
・
・

中国語で誤解をしないように（第9回）

「工夫」

「彼はいろいろと工夫をして、ついに成功を収めた」との文章を「工夫」をそのまま使って中国語に訳した場合、中国人は「彼は一生懸命に腕を磨いて、ついに成功したのであろう」と思うでしょう。何故なら中国語の「工夫」には「時間」や「暇」との意味と併せて「(研究・修行の結果による) 年期が入った腕前とか造詣」との意味があるからです。

一方日本語の「工夫」とはあれこれといろいろ考えて良い結果を得ようとすることや、その考えついたうまい方法そのもののことを意味しています。

従って「今天下午有些工夫」(今日午後にちょっと暇があります)とか「对漢詩工夫很深」(漢詩に対する造詣が深い)、「这个工作很费工夫」(この仕事はたいへん手間がかかる)等の使い方をします。

日本語の「工夫」「工夫をする」は中国語で「設法」「開動脑筋」或いは「動脑筋」と言い、冒頭の文章は「他×命地動脑筋、终于取得了成功」となるでしょう。

・
・
・

中国語で誤解をしないように（第10回）

「理屈」

中国語の「小王自觉理屈」という文章をそのまま「王君は理屈を自覚した」と訳すと全く意味が通じません。中国語の「理屈」は「理が屈する」とのことで「理由が立たない」「道理が間違っている」との意味です。従って正しい邦訳は「王君は理由が立たないことを自覚した」、即ち「王君は自分の理屈が通らないと気が付いた」となります。

日本語の物事の筋道、こじつけの理由、現実を無視した理由付け等を意味する「理屈」に該当する中国語は「道理」「理由」や「借口」「歪理」等があります。「借口」は口実に

するとのことで、「歪理」は道理を歪曲することから来ています。例文としては「そんな理屈はない」(豈有此理)、「理屈を言えばきりがない」(歪理講起来没完)、「ごもっともです」(有道理)等があります。また中国では口喧嘩をしている二人を見ていて、その理由が間違っている方に対して「他理屈」(彼に道理がない)と批評するそうです。

日本語の「理屈」は一つの言葉ですが、中国語の方は「理に屈する」と述語になっている点に注意して下さい。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第11回)

「手」

「手」という日本語は非常に広い範囲で使われています。その内の幾つかはそのまま中国語として通用しており、例えば「手段」「手術」「手続」「助手」等があります。然し日中両国語の意味の違いがたくさん多く存在しており、一番皆様の話題に上るのは「手紙」で、ご存知の通り中国語では「落し紙」、即ちトイレットペーパーのことです。日本語の手紙は中国語で「信」と言います。

日本語の「手短か」は話の進め方を手っとり早くすることで、中国語では「簡単」で表現し、手短かに説明することを「簡単に説明」と言います。一方中国語の「手短」には「手が短い」という意味と共に「頭が上がらない」の意味があります。「吃人家的嘴短、拿人家的手短」とは「人から食べさせてもらったり、人から物をもらったりすると頭が上がらない」とのことであり、また「我在他手里有短(私は彼には借りがある)」との使い方もします。

「手短」の反対の「手長」には、「手が長い」という意味のほかに「コネが多い」との意味があり、コネとか人脈を重視する中国では「手長」は、あの人は立派で良い人脈を持っているとの、良い意味で使われています。

「手」にはまだまだいろいろとあります。日本語の手勢を持つ「手勢」は自分が指揮する勢力や手駒の意味ですが、中国語では「手の動かし具合」のことを意味しており、「做手勢」と言うと「手まねをする」「ふりをする」の意味です。「手慰み」はその使い方中国語では「玩弄(遊ぶ)」や「消遣(気晴らしをする)」、そして「賭銭(博打をする)」等の表現があり。また「手直し」を中国語の「手直」とすると「手が真っ直ぐである」との意味しかなく、日本語では「修改」とか「加以修正」との表現になります。いずれにしても日本語と同じ意味はどの言葉であるか、どれをそのまま使ったら意味が通じないのかを良く識っておく必要があります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第12回)

「無心」

中国語の「無心」は簡体字では「无心」と書きます。「无」は日本語の漢字の中にもあり、「無」の古字で「無」と全く同じ字と理解して下さい。日本語の「無心」は無心な子供とか、無心に絵を画くとか、金を無心すると使うように「無邪気な様子」や「一生懸命に何かをやっている」、或いは「人にお金やものをねだる」との意味に使われ、中国語では「天真爛漫の小孩子(無心な子供)」「専心致志地画画儿(無心に絵を画く)」「向父親討錢(父親に金をねだる)」と表現します。

さて中国語の「无心」は、日本語のやる気がない、やる気になれない、何の考えもないとの意味であり、「他无心」と言う「あの人は物事に対して深く考えずに行動する」との場合に使われ、けなす意味は全くありません。「无心无意」と言う中国語は全く誠意がないとの意味であると共に、全く悪意がないとの意味でもあります。従って「他无心接待客人」と言った場合、日本語の「無心」から「彼は一生懸命お客様を接待している」と理解されますが、中国語の意味は「彼はお客様を接待する気がない」と全く反対の意味となり、また「這是我无心的話、別介意」と言えば、「これは私が何気なく話したことなので、気にかけて下さい」との意味です。

元来「無心」は仏教語から来ており、妄念を離れた心の状態、所謂「無念無想」の状態を指しています。分りやすく言えば「自然体」のことであり、現在日中関係でいろいろなことが言われていますが、我々は何も先入観を持つことなく、自然体で中国の人々と付き合っていくことが肝要と考える次第です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第13回)

「当面」

我々は交渉の際に「当面は静観します」「当面その方針に変わりはありません」と良く「当面」と言う言葉を使います。また「当面の問題は何とか処理出来ます」との使い方もあります。前者は「さし当って」とのこと、交渉事で先方から何か前向きな提案があった際に現状維持を表現する際に使われ、後者は「現在直面している情況」を指しています。

一方中国語の「当面」の意味は「面と向かって」とか「直かに」「直接」との意味であり、日本語の「さし当って」とか「直面している」との意味は全くありません。日本語の「当面」は中国語で「目前」「当前」「面臨」とっており、「目前静観這個情況」「当前没改变那个方針」「目前的问题还可以处理」となります。

中国語の「当」には一声と四声があり、「当面」は一声です。「当面不説、背后乱

説(面と向かって何も言わず、陰であれこれ言う)」や「当面講意見(直かに意見を言う)」等の使い方をします。一声の「当」は「当る」「担当する」の意味で、日本語との同形同義語が多く、「当初」「当地」「当然」「当夜・当晚」等々全く同じ使い方をしています。

面白いのは四声の「当」で、我々が一般的に使っている「見做す」或いは「~とする」との意味の「当做」です。その他の四声の「当」としては、「質に入れる」とか「だまされる」との意味があり、昔中国の質屋(現在では質屋と言うものがあるかどうか分かりませんが)の看板は「當」と大きく書かれていました。「當舖(質屋)」の関係では「当借(質に入れる)」「当票(質札)」や「当头(質ぐさ)」「当死(質流れ)」等があり、また「だまされる」との意味では、「上了当(だまされた)」とか「別上了他的当(彼にだまされるな)」の表現があります。今回は我々が普段良く使う「当面」の言葉から、中国語の「当」と日本語の「当」の使い方の違いについて述べてみました。

・
・
・

中国語で誤解しないように(第14回)

「急用」

日本語で「今日は急用があるので失礼します」の「急用」をそのまま使って、「今天有急用、請允許我告辞」と言うと、中国人は「何か急ぎなお金か物の必要があるのだな」と理解して、お金や物を出して援助することまで考えてしまいます。

どこからこの間違いが来るかと言うと、日本語と中国語では「用」の使い方が異なる点にあります。「用いる」とか「使う」との点は両国語とも同じですが、日本語の「用」は用事(急用、用件)、働き(効用)、或いは特別な用途としてトイレに行く等に使われます。一方中国語は「使う」との意味と併せて、「何かを必要とする」とか「費用」として用いられます。従って中国語の「急用」は、差し迫って必要とする費用のことで、「今天有急用」と言われると「急にお金が必要になったのだな」と思われてしまう次第です。なお中国語では「食事をする(用餐)」とも使われます。

日本語の「急用」は中国語で「急事」或いは「要緊事」と表現します。「今日急用があるので」は「今天有事」と表現します。一刻を争う急用は「刻不容緩的急事」、急用で北京へ行くは「有急事、到北京去」、また急用を済ませてから貴方に電話をするは、「先辦完這件急事后、打電話給Ni(人編に爾)」と表現します。

なお同じ言い方で意味が異なる「用」の使い方としては「用意」があります。日本語では「準備する」との意味ですが、中国語は「意図、ねらい、心づかい、気をつける」等の意味で、全く異っています。例えば「私は明日の旅行の用意をする」は「我為了明天的旅游要準備」であり、「彼のねらいは何処にあるのか」は「他的用意何在」とな

ります。「用意」は同じ「意を用いる」とのことですが、日本語は事前の準備の方に意を用いており、中国語はねらった目的の為に意を用いています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第15回)

「結束」

そのまま使うと全く意味が違ってしまふ中国語に「結束」という言葉があります。日本語の「結束」は「目的を同じくする者が団結する」との意味ですが、中国語の意味は「終わる、終わらせる、始末する」と、物事を終結させる場合に使われます。従って「私が最も関心を持っているのが会社の結束である」との日本語をそのまま「我最関心的是、公司的結束」と訳すと、中国語では「私が最も関心を持っているのは今後会社がどの様な終焉を迎えるかである」との意味となり、たいへんな誤解を招ねくこととなります。日本語の「結束」を中国語では「k u n (手偏に困)」、又は「団結」と言います。従って「我最関心的是、公司内部の団結」としないと意味が通じません。同じ「結び束ねる」とのことから、日本人は「まとまり、団結」とのことを考え、中国人は「これで終了」と考えた次第です。

以上の次第で「今天會議結束了」は今日の会議は終わったとのことであり、「結束は力である」を「結束就是力量」と訳すと「事を終わらせることが力である」と誤解される恐れがあり、「団結就是力量」が正しい中国語訳です。

なお「結束生命」との中国語は「命を断つ」との意味ですが、若し日本人がこの語句を見て「生命を結束させる」と理解すると、社員一同が「仕事に命をかける」とか或いはスポーツ試合で選手が「一致団結する」との意味を考えるかも知れません。

また面白いのは同じ「結」の字を使った言葉で「結構」という単語があります。日本語では「たいへん結構ですね」と中国語での「非常好!」の意味ですが、中国語は全く異なって「文章などの構成」とか「建築物の構造」の場合に使われます。なお漢和辞典を見ると「結構」の説明として、「りっぱなこと、すぐれたこと」よりも前に「組み立てる」「構造」の説明が出ていますが、現在では「構成」とか「構造」の使用が普遍化して、その意味での「結構」は全く使われていません。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第16回)

「大丈夫」

日本語では「大丈夫」を「この建物は地震があっても大丈夫だ」とか「熱が下がっ

たからもう大丈夫だ」と使っておます。然し中国語の「大丈夫」は「男の中の男」とか「これこそ男子」の意味で、日本語の使い方とは全く異なります。「這所房子即使有地震、也没關係」とか、「已經退了燒、不要緊了」と、「没關係」「不要緊」「没問題」等を使って日本語の「大丈夫」の意味を表現しています。

中国語に「大丈夫」と同じ意味で「好漢」との言葉があり、毛沢東は「不到長城、非好漢（長城に到らざれば、好漢にあらず）」と言う有名な言葉を残しています。

もちろん日本語にも「男の中の男」としての「大丈夫」と言う言葉がありますが、現在では「大丈夫たる者かくあるべし」と言うより「男一匹かくあるべし」との言い方が普遍的になっています。

中国には「男子漢大丈夫、敢做敢当（男一匹、やるからには思い切ってやり、潔く責任を執る）」との諺があり、また老子の中に「大丈夫処其厚、不居其薄、処其实、不居其華（大丈夫とは、その厚きに処して、その薄きに居らず、その実に処して、その華に居らず）」との言葉があります。「大丈夫たる者、その人と為りと処世は、純朴で人情に厚く誠実であらねばならず、決して軽佻浮薄で華美であってはならない」との意味で、この2つの表現から中国の大丈夫を理解して頂けると思います。

では「大」の字を取り去った「丈夫」についての日本語と中国語の違いについて触れてみましょう。日本語で「丈夫」とは「丈夫な身体（病気の無い健康な身体）」とか「丈夫な箱（頑強で壊れない箱）」の意味で使われます。一方中国語は「夫」と言う意味と併せて、「男子たる者、男らしさ」の意味があります。この様に「大丈夫」と同様に「丈夫」も日本語と中国語の意味は全く異なっており、非常に面白い次第です。皆様は「夫」の方は良くご存知なので、後者の「男子」の例として「丈夫做事不二過（男たる者、一度の過ちは恥にならず）」との諺を挙げておきます。

因みに「丈夫」の語源は中国古代の周の制度で、男子の背丈が一丈に達した時に成人男子と認められたことに由来しており、責任と自覚を以って行動が出来る一人前の男のことを意味しています。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第17回）

「苦情」

「苦情」と言う言葉があります。日本語で「苦情」と言うと、「他人から害を受けている状態に於いて文句を言うこと」と「商売等で損害を受けた時に損害賠償を請求するクレーム」の2つの状況を指しています。一方中国語にも「苦情」との言葉がありますが、これは日本語の「苦情」とは異なって、「苦しい状況、直面している困った立場」の意味です。「彼は言い出せない苦しさを隠している」を中国語訳した場合は「他内心隐藏着难言的苦情」となります。

日本語の他人から害を受けた場合の苦情を中国語では「不満」「不平」「牢騷」及び「抱怨」と言います。例えば「相手から苦情が出る(对方発出抱怨)(对方提出不満的意見)」とのこと。また商売等のクレームの場合は「索賠」との言い、「クレームを申し立てる(請求索賠)(提出索賠的要求)」とか「クレームの解決(解決索賠問題)」と表現します。日本の「消費者苦情センター」は「消費者投述中心」と呼ばれています。

日本語の「苦情」も中国語の「苦情」も悪い状況に在ることは変わりありません。然し日本語の方は「不平、不満を申し述べる」状況に在り、中国語の方は「困った立場」の状況に在るとの「苦情」の差をご理解頂ければと思います。

なお「苦情」とは「苦の状況」とも理解出来ます。日本語で「苦」と言うと「苦しい」と「苦い」の意味があります。一方中国語の方の表現は非常に広く、この「苦しむ」「苦い」の2つの意味と併せて、更に「ひどい」「度が過ぎる」「極力」「一生懸命に」等の意味を持っています。「苦死(ひどく苦しむ)」「給銭給得太苦(お金のくれ方がひどい=けちである)」「苦勸(極力勧める)」「苦心人(たいへんな努力家)」「苦干(一生懸命に仕事をする)」等々です。この「苦」を使って「たいへんな努力家」とか「一生懸命に仕事をする」等の良い表現を作っている所が中国語の面白い所かも知れません。

・
・
・

中国語で誤解しないように(第18回)

「器用」

日本語で「器用」と言うと「手先の技が巧みな」との意味を表しています。然し中国語での「器用」は全く異なっており「有用な人物」という意味です。確かに器用な人は有用な人物ですが、中国語の場合の有用な人物とは「国家之器用」、即ち「国家の有用な人材」と言われるほど、手先の技では及びもつかない、所謂「大器」のことを指しています。また有用な人物として上司から重視される人物も「器用な人材」とされています。中国語の「器用」の意味にはマイナス面がないので、能力もなく胡麻すりだけで上司から重視されるような人材は「器用」とは言いません。

確かに中国語の「器」には「入れ物」「道具・器具」と併せて「才能・度量」という意味があり、そこから「有用な人物」との意味が出てきたのは理解出来ます。然し日本語の「器」にも同様な意味があり、度量の大きい人を「大器」と言うような人材を評価する表現はありますが、何故日本語の「器用」には中国語と同じ「有用な人物」との意味がなく、「手先の技術が巧み」との意味になったのかは分かりません。

なお日本語には褒め言葉とは言えませんが、「器用貧乏」との表現があり、これは何事も人並以上にはこなすが、大成出来ない人材のことを表現しています。この「器

用貧乏を、中国語では何にでも通じている人との意味で「様様通」と訳したり、またシンガポールの華僑：胡文虎が売り出して大金持ちとなった、塗れば何にでも利くと言う万能の油薬からもじって「万金油」と訳したりしています。

さて中国語の「器用」、即ち「手先の技術が巧み」なことを、中国語では「手功」「靈功」或いは「機靈」と表現しています。「器用な人」は「手功的人」、「器用な細工」は「精巧工芸品」です。

是非同じ「器用」でも、日本語の「器用貧乏」ではなく、中国語の「国家之器用」と言われる人材になって頂きたいと思っています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第19回)

「安心」

「安心」と言う言葉は仕事でも良く使います。「契約条件通り船積をしていますからご安心下さい」とか「台風に遭いましたが、期日通り到着しますので安心して下さい」等です。日本語の「安心」は皆様良くご存知の通り「放心」です。従って上記は「按着合同条件正在進行装貨、請放心 (b a : 口偏に巴)」及び「雖 (p e n g : 石偏に並) 到了台風、但按期到貨。請放心 (b a : 口偏に巴)」となります。

問題は中国語で「安心」と書くと日本語ではどのような意味になるかです。「心を安らかにする」と理解すると、これは「放心」と同じ意味と考えられますが、中国語で「安心して下さい」と話をする時には決して「安心」とは言わず「放心」との言葉を使います。さて「安心」とは「心を安らかにする」との意味で「落ち着く」とか「のんびりする」との意味があり、「安心工作 (落ち着いて仕事をする)」とか、「安心養病 (のんびり療養する)」との使い方をしていきます。

然し中国語の「安心」にはこれと併せて、「心の持ち方として、余り善くない考え方を抱く」とか、「故意に」又は「わざと」との使い方があります。「他安心不善、不可以相信」とは「彼は悪だくみがあるから、信用出来ない」、そして「安心坑人」とは「たくらんで人を陥れる」ことであり、「安心担擱着做工作」は「故意に遅らせて仕事をする」との表現になります。従って中国語で話をする場合に「安…心」を使うと悪い意味の表現と取られる可能性があります。中国語の「安心」にはこの様な日本語と全く違った意味が含まれていますので、使用には是非気をつけて下さい。

扨て、では日本語の「放心」にはどのような意味があるかと言うと、「放心状態」との語句からご理解頂ける様に、「突然の出来事の為に心を奪われぼんやりする状態」を表現するのが一般的です。この他に「心配することを止める」との意味もあり、これが、我々の使う「安心」、そして中国語の「放心」に繋がると考えます。

なお漢和辞典によると「放心」には「失われた良心」との意味もあります。孟子の

中に「学問之道无他、求其放心而已矣」との言葉があり、「学問の道は他なし、その放心を求めのみなり」とのことで、ここにその意味が使われています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第20回)

「真面目」

我々は良く「真面目」という言葉を使います。「彼はたいへん真面目に仕事をしている」とか「真面目に話をしましょう」と副詞的に使ったり、「これは真面目な話です」とか「彼は真面目な人です」と形容詞的に使ったりします。この日本語の「真面目」は「本気で嘘・偽りが無い」ことを表現しており、一方中国語で「真面目」と言うと「ほうとうの姿」とのことで、日本語とは全く意味が異なってきます。

日本語の「真面目」を中国語では「認真」「真心誠意」「老实」或いは「正經」と表現します。従って上記の日本語は「他很認真地做工作」と「我們談一談正經的話・(b a : 口偏に巴)」、そして「這是老实話」、「他是正經的人」となり、一般的に否定した場合を除いて非常に良い使われ方をします。

一方中国語の「真面目」は、「ほんとうの姿」の意味ですから、「隠されたほんとうの姿」或いは「正体」とのことで、悪い意味に使われる場合が一般的です。例えば「この事件は帝国主義の本体を暴露した(這件事暴露了帝国主義的真面目)」とか、「彼はついにありのままの姿をさらけ出してしまった(他终于露出了他的真面目)」と使われます。

さて日本語の方は、これを否定した形でいろいろと悪い表現があります。例を挙げますと「くそ真面目(死心眼、死認真)」「真面目くさった顔(仮装認真的様子)」「真面目くさって言う(仮装正經地説)」等です。

なお「真」を取り去った「面目」の方は日本語と中国語の意味は同じです。「顔」「体面」「本分、もちまえ」等で、「面目を施す(作臉)」「面目を一新する(面目煥然一新)」「自分の本分を守る(守自己的面目)」の表現があります。史記の項羽紀に、項羽が故郷を前にして死を覚悟した時に「我何面目見之(我何の面目あって之にまみえん)」と言ったと記しています。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第21回)

「勉強」

「勉強」という文字は子供の時から耳に痛いほど聞かされています。「しっかり勉

強しなさい」とか「もっと勉強しないと希望の大学に入れないよ」と良くお母さんから怒られ、そして社会に出た後でも上司から「もっと仕事について勉強しないと偉くなれない」と怒られ、我々の一生を付いて回る非常に身近な言葉です。また「貴方のお話を聞いて良い勉強になりました」と言う表現もあります。

一方中国語で「勉強」と言うと全く別な意味なので驚かされます。確かに漢字の語源を探ると「勉」は「力を出して努める」とのことですから、それに「強」が付いたことによって「強制的に力を出して努める」とのこととなり、「いやいやながら我慢して努力をする」との意味になります。ここからは学習するとの意味が全くありませんので、或いは昔学習塾や寺子屋で子供が意味も分からずに四書五経を素読させられたことによって、「勉強する」と言う日本語が出来たのかも知れません。

日本語の勉強するとの意味の中国語は「学習」或いは「用功」です。従って「しっかり勉強しなさい」は「好好学习 b a (口扁に巴)」或いは「努力用功 b a」で表現され、「良い勉強になりました」は「為了我、是一个很好的学习」です。もう一つ日本語の「勉強」には「勉強しますので是非一ツ買って下さい」と商品を手渡す際に引きずる言葉としての独特な使われ方もあります。中国語では「我特別減価、請買一个 b a (口扁に巴)」との表現になるでしょう。

中国語の「勉強」はやりたがらないことを無理強いする際に使用され、「いやいやだが仕方がない」とか「いやいやながら」、「どうにか」や「やっとのことで」との意味に使われます。

「这个説法、太勉強 (この様な言い方は非常にこじつけである)」とか、「勉強答应了 (しぶしぶ承諾した)」、「既是他不肯来、不必勉強了 (彼は来たがらないのだから、無理強いする必要はない)」、「这点汽油勉強 g o u (句扁に多) 到横浜 (これだけのガソリンでは横浜までがやっただ)」等々です。

確かに勉強は一日にして成らずであり、自分には無理だと思ふほどの努力を重ねてこそやっとなら希望するレベルまで到達するのですから、中国語の「勉強」を学習するとの意味で日本語で採用したのは誠に理を得ているのかも知れません。我々は一生涯をかけて「勉強努力用功」すべきであると思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第22回)

「評判」

日本語の「評判」は、「彼は評判が良い」或いは「彼の評判が悪い」と言う評価や評論、「彼の業績は評判である」或いは「彼は日本で評判の書家である」と言う有名や著名の意味、そして「私も彼のそんな評判を聞いた」と言う伝聞や風聞の意味で使われています。

例えば評価や論評では、「彼は評判がたいへん良い（他的評価很好）」或いは「彼の評判が悪い（他的名声不好）」と使われ、有名或いは著名では「彼の業績は評判である（他的成績是出名的）」或いは「彼は日本で評判の書家である（他在日本很聞名的書法家）、そして伝聞や風聞では「私もそんな評判を聞いた（我也聽到了、那種傳聞）」と言う使い方になります。

一方中国語で「評判」という意味は、評判を2つの語句に分けた「批評や評価と判断」で理解される、日本語で言えば審査と判定や評定の意味で使われます。例えば、「評判員」は日本語の審査員であり、「評判展覧品」は展覧品の優劣を審査することであり、また「他的評判是公允的（彼の判定は公平である）」との使い方をしていきます。「評」とは批評する、審査することの意味であり、「判」は判定する、判決することの意味です。

中国語の「評判」と似た様な言葉で「批評」という言葉があります。日本語の意味は物事の善し悪しを指摘して論じることですが、そして元来中国語も同様であったのですが、現在はちょっと違っている様です。中国の文化大革命の時代に「自我批判」と言うことが広くおこなわれました。これは「自己批判」と言うべきもので、大衆の面前で「私はこれこれの罪を犯しました」と自己批判をさせる政治活動でした。この点から善し悪しを論じるより、「相手の間違っている所を申し立てる」との意味合いが強くなっています。「開検討会時、我們要无情地批評同志（反省会を開催する時は我々は遠慮なく同志を批判すべきだ）」の様に使われています。

私たちも中国の企業で仕事をする時に、一緒に働いている中国人の仲間（同志）から批評を受けない様に心がけたいと思います。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第23回）

「迷惑」

我々は人にいろいろと迷惑をかけ、また時には常識のない人から迷惑を蒙ることがあります。この「迷惑」という言葉も日本語と中国語では異なる意味があり、今回は「迷惑」について述べてみましょう。

日本語の迷惑とは、「じゃまをされて困る」とか「他人のことで煩わしくいやな目にあう」とのことです。また古語としては仏教語から来た意味と思いますが、「心が迷って悟りきれない」との意味もあるそうです。

中国語で言えば、「添麻煩」「打擾」「為難」等がこれに当たります。皆様にご迷惑をかけてはいけませんよと言う「n i 不要給大家添麻煩（n i は人扁に爾）」とか、お邪魔します或いはご迷惑をおかけしますと言う場合の「打擾n i（同前）」、そして、あの人の為にずいぶん迷惑を受けたと言う場合の「為了他的事情、我曾經很為難

了」との使い方がされます。

中国語の「迷惑」には、また日本語で言うと先ず「正気を失う」という意味があります。「迷惑過去」と言うと「正気を失った」であり、また「用薬把他迷惑住了」で「薬をを使って彼の正気を失わせた」との意味になります。

次に「迷う」「惑う」並びに「迷わされた」「惑わされた」との意味があり、日本で狐や狸にだまされたと言いますが、この中国語訳は「叫狐狸迷惑住了」です。その他の例として、「迷惑无主（迷って判断を失する）」、「迷惑不解（判断に惑う）」そして「迷惑人（人を惑わす）」等があります。

「迷惑」という語句のおもしろい点は、日本語では「迷惑」と言う2文字で「迷惑をかける、」との1つの意味を表すのに、中国語のお方は「迷惑」2文字で日本語が持つ「迷う」「惑う」と漢字のそれぞれの意味を表していることです。是非他の人に「添麻煩」や「打擾」する様な、或いは「為難」させる様なご迷惑をかけない様にしたいものです。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第24回)

「経理」

日本語で「経理」と言うと会計や給与支払い等の金銭を扱う業務のことですが、現代の中国語では「マネジャー」、即ち支配人や経営者の意味です。元来中国語の古語として「経理」という言葉があり、「治め整える」とか「すじみち」の意味でした。恐らくこの治め整える人との意味で、英語のマネジャーを「経理」と中国語訳したものだと思います。

中国では企業の経営最高責任者、即ち社長のことを「総経理」と言っていますが、その語源は英語の「ジェネラル・マネジャー」です。現在では英語で経営最高責任者のことをプレジデントとかCEO（チーフ・エグゼクティブ・オフィサー）と言っていますが、英国では未だに「ジェネラル・マネジャー」と称している企業が多いと思います。

では日本語の「経理」のことを中国語ではどう表現するかというと、「財務会計」或いは略して「财会」です。従ってご担当は何ですかと聞かれ「私は経理を担当しています」と答える時は、「我負責財務会計」或いは「我負責财会」となり、また日本の経理課は「財務会計科」或いは「财会科」となります。

中国の会社に於ける職責は、上から総経理（社長）、副総経理（副社長）、総会計師（財務会計担当最高責任者）、総エンジニア（技術担当最高責任者）、経理（部長）、科長（課長）があり、中国で外資が合弁会社を設立した場合に、「中外合資経営企業法」の規定により取締役会を設け、総経理、副総経理、総会計師、総エンジニアの4つの

職責者のみは取締役会の決議により任命されることになっています。

今回は「経理」という言葉の日本語と中国語の差を説明することと併せて、会社の職責の表現の差の説明を致しました。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第25回)

「手腕」

第11回で「手」の説明を致しましたが、今回は「手腕」という言葉を取り上げてみたいと思います。

日本語の「手腕」は、「彼はなかなか手腕がある」とか「彼の料理の手腕はなかなかである」「これは大いに手腕を必要とする仕事だ」等々、その人の腕前とか才能を褒める表現に使われています。もちろん中国語でも「手腕がある」との表現がありますが、日本語と違う点はその「手腕」が主として暗いイメージの表現に使われることです。

中国語の「手腕」には「手首」「腕首」という主な意味があります。然しこれと併せて腕前とか才能とかの意味も存在しますが、それは「手管」とか「術策」との意味であり、能力或いは才能ではあっても日本語で言う陰謀をめぐらして、手管を弄すとか術策を弄す方の才能に使われています。例えば「彼はなかなか手腕がある(他很有手腕)」と言っても、それは「要手腕(手管を弄す)」とか、「政治手腕(政治的な手腕)」の様なイメージ的に悪い使われ方をしています。従って同じ意味であるからと言ってそのまま中国語に当てはめて使ってしまうと、中国人に誤解をされてしまう恐れがあります。

では日本語の「彼はなかなか手腕がある」は、どの様な表現の仕方をするかと言うと、「他很有才能」とか「他很有実力」が適しています。彼の料理の腕前はなかなかであるは「他做菜的才能很大」であり、これは大いに手腕を必要とする仕事は「這是一件需有很大本領的工作」となります。

日本語は中国語と同じ漢字を使っていますが、使っている過程で日本に於ける使い方が本来の中国語の感覚からずれて使用されている場合がいろいろと存在しており、この「手腕」もその一ツの例として取り上げたものです。第21回に挙げた「勉強」は元来の意味と全く異なった使われ方をしている例であり、この様に同じ漢字であるとは言っても中国語は日本語と異なった外国語であり、是非「中国語を誤解しないように」との趣旨に沿って、中国語を中国語として理解する様にして頂きたいと願っています。

・
・

中国語で誤解しないように (第26回)

「合同」

「合同」という文字は商売をしている方か、或いは弁護士・会計士の方しか知らない言葉かもしれません。日本語での「契約」或いは「契約書」という意味です。若し三井銀行と住友銀行が設合併をして三井住友銀行が設立されたことについて、例えば新聞の大きな見出しに「三井銀行と住友銀行の大合同」と書いてあると、これを見た中国の方は「三井銀行と住友銀行が大きな契約をしたのだな」と理解するでしょう。

元来日本語での「合同」の意味は2つのものが1つになることで、これ以外の意味はありません。従って中国の方は大きな誤解をしてしまいます。然し、Aと言う高校とBと言う高校と一緒に運動会を開催すの為に建てられた「A高校・B高校合同運動会」と言う看板を中国の方が見たら、きっと「これはA高校とB高校が運動会の契約をしたな」と理解するので、その意味ではA高校とB高校がその場所で一緒に運動会を開催しているのを見たら、大きな誤解は生まれません。このような理解度のニュアンスの差が、その状況如何で異なる点が日本語と中国語が同じ漢字を使っている所の面白さと思います。

一方、中国語の「合同」には、日本語の2つのものが1つになるとか、2つのものが一緒に何かをするとの意味が全くありません。「契約」或いは「契約書」の意味だけです。「契約する」は「**拟定**合同」で、「契約書に調印する」は「**签定**合同」です。中国語にも「契約」と言う言葉が同じ意味で存在しますが、一般的には使われていませんでした。然し日本との商売が多くなり、日本語の契約書を中国語訳するケースが多くなった為か、現在では中国語として「契約」或いは「契約書」との表現が見られるようになって来ています。

扨て皆さんは現在の会社に勤務された時に雇用契約書にサインされましたか。多分「会社の規定を遵守します」と言う誓約書を出され、それに保証人のサインが要求されます。これは日本の雇用制度が終身雇用制であり、また日本の労働基準法では「雇用に際して必ず雇用契約書を締結しなければならない」との規定がないからです。ただ労働基準法には「雇用条件、例えば賃金、就業場所、始業及び就業の時刻、休日、有給休暇、退職等に関する事項、定年等の労働期間に関する事項は必ず文書で明示しなければならない」との規定がありますので、それが代わりをしています。一方中国の労働法では、必ず雇用期間を明記することが義務付けられており、その第19条に「雇用契約は必ず書面にて締結しなければならない」と規定しています。労働法では同じ会社に10年間勤務したら、労働者に無期限の、即ち会社が規定する定年まで勤務出来る雇用契約の締結を要求出来るとの条項があります(労働法第20条)。日本とは大きく異なる点です。この雇用契約書を中国語では「労働合同」と言い、また労働組合が労働者を代表して企業と集団雇用契約を締結することが出来(労働法第33

条)、この集団雇用契約書のことを「集体合同」と言います。

日本の方の中には「中国は人治の国であり、文書は不要である」と言う方もおられますが、それは余程中国の方の信頼を勝ち得た個人の関係であり、企業として中国で仕事をされある条件を取り決めた場合には、必ず「確認書」か「合同」を締結して下さい。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第27回)

「模様」

日本語で「模様」と言うと、織物や工芸品に施した模様やデザインのこと、そして又、「空模様がおかしい」と言うように天候状態を指す場合に使われています。若し「この着物の桜の模様はとても素晴らしい」を「這個衣服上的桜花模様是很漂亮的」と中国語で表現すると、それを聞いた中国の方は「桜花模様」とは何のことを言われたのかと理解出来ません。

日本語の織物や工芸品の「模様」のことを、中国語では「花様」「花紋」「圖案」と言います。然しそれぞれ使い方が異なって、「花様」は個々の模様並びに全体の模様に使われますが、「花紋」は個々の模様のみ、そして「圖案」は人がデザインしたものを指すとの違いがあります。従って上記の「この着物の桜の模様はとても素晴らしい」の表現は「這個衣服上的桜花圖案很漂亮」となります。

一方中国語で「模様」と言うと、「容貌」や「様子」を指し、またこの「模様」は年齢や時間の場合にも使われ、その時の意味は日本語の「おおよそ」とか「大体」の意味になります。「容貌」や「様子」の例では「彼女は顔はまずいが、人柄は良い」との表現は「t a (女偏に也) 虽然模様不漂亮、但人不错」となり、また「空模様がおかしい」は「天气的様子有点儿不正常」となり、また年齢や時間の例としては、「30歳模様的人 (おおよそ30歳くらいの人)」とか、「等了半个小时模様 (大体30分ほど待ちました)」との使い方をします。

実は漢和辞典によると、「模様」とは「様子」「ありさま」「かた」の表現と記されており、これは中国語と同じ使われ方で、所謂我々の使う「花の模様」とか、「花のデザイン」の様な使われ方が出ておりません。然し国語辞典では「飾りとしてつける絵や形」となっており、それが敷衍して「模様のように込み入ったありさま」として使われる例として「人生模様」と言う言葉が出ていました。

これから見て現代の言葉での「模様」は、どうやら中国語と日本語では明確に表現の差が生じているようで、やはり中国語と日本語は同じ漢字ですが、その使い方には十分注意すべきと認識させられました。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第28回)

「社員」

日本の会社に勤務している従業員を、日本語では簡単に「会社員」或いは「社員」と表現し、職業欄にも「会社員」と記入するのが当然であると共に、社訓や社内規則に「当社員は……であるべし」と書かれています。残念ながら欧米では職業欄に記入する職業として「会社員」と言うのがあるかどうかは不明ですが、日本語で言う「会社員」は、英語の「サラリーマン (正式にはサラリドマンですが)」に該当すると思われま

す。ではこれを中国語で何と言うかと言うのに常に悩まされます。若し「司員」と言う使い方

が日本のように一般的であれば問題がないのですが、中国語ではこのような使われ方はしていません。政府機関の例えば「財務局」を中国語では「財務司」と言いますので、「司員」と言うと「局員」の意味になってしまいます。

日本では事務職も工場の工員も、或いは土木工事等の労働者も、全て会社と言う組織で働いている限り「会社員」と言うことが可能ですが、この「会社員」に該当する適切な中国語は何かと言うことに常に悩まされています。

一般的に事務所で働いているスタッフを「辦事員」、工場で働いている工員を「工人」で表現し、それを纏めて「員工」と言っています。従来の表現では全てが「労働者」であった訳ですが、然し現在中国の人に職業は何ですかと聞けば、「辦事員」又は「工人」と簡単に言うか、或いは「公司的辦事員」とか「廠方的工人」と答えるでしょう。

「会社員」を中日字典を引くと「公司的職員」となっています。これ自体はこの表現で間違いはないのですが、直訳しただけであってそのまま使えません。やはり文章では、ケース・バイ・ケースで「公司人員」「公司员工」「公司職工」との使い方をしています。

では中国語で「社員」と表現したら何を指すかと言うと、今では消滅しましたが、人民公社や合作社で働いている人或いはそれに属している人のことでした。現在実際に使われているのは、「……社」と称する集団に属している人の名称で、具体的な例として、浙江省杭州市の西湖湖畔にある「西冷印社」のメンバーがあります。「西冷印社」は、著名な書家や篆刻家がメンバーとなった集まりであり、日本人のメンバーも居られます。人数を限定しており、メンバーが亡くなるとウエイティングの順序に従って補充されますので、「西冷印社」の「社員」になれることは、書家或いは篆刻家として非常に名誉とされています。

・

・
・

中国語で誤解しないように (第29回)

「小心」

日本語に「小心翼翼」という言葉があります。我々が一般的に使うのは「気が小さくてビクビクしている様子」を表現するものですが、もう1つ「細かく気を配って慎重深い」との意味を持っています。従って日本語の「小心」とは、「気が小さくて臆病なこと」と併せ、「慎重過ぎる」との意味があります。然し「慎重過ぎる」との表現は、我々は一般的に「慎重」という言葉を使っていますので、ここで言う「小心」とは、「気が小さくて臆病である」とのことのみで良いでしょう。実は中国語にも「小心翼翼」という表現がありますが、これには「気が小さくてビクビクしている」との意味は全くなく、「細かく気を配って慎重深い様子」のみを表しています。

中国語で気が小さく臆病である人を「胆小的人」或いは「胆小鬼」と表現しますので「彼は非常に小心な人間だ」と言う時は、「他是非常胆小的人」、或いは「他是胆小鬼」となります。中国語の「気が小さい」や「臆病」としては、「胆怯」「怯懦」という表現もあります。

一方、中国語の「小心」には、「注意する」「気をつける」「用心する」との意味があります。標語としては「火の用心 (小心火災)」「感電注意 (小心有電)」や、「取扱注意 (小心軽放)」です。また皆様が良くご存じの「注意しろよ!」と相手に注意を強く呼びかける際に使われます。「小心一点儿!」です。「気をつけろ!、水溜まりがあるよ (小心!、路上有水)」とか、「気をつけろ!、(凍ってるから) 滑るよ (小心点儿!、路上凍結)」といろいろ注意を促す際に使用されます。またこの他に「十分に注意しなさい (要多加小心)」とか、「彼は何をやるにもたいへん注意深い (他做事、很小心)」等の使い方もあります。なお「注意する」には「小心」と併せて「留心」との言い方もあります。

扱て「小心」に関連した用語として「小心眼儿」があります。これは「心が狭い」「度量が小さい」、更には「けちな根性」を表現しています。例えば「あいつは全く心が狭い、あんな小さな事をまだ根に持っている」と言う中国語の表現は「這個人真小心眼儿、為那点儿小事還記仇」となります。また「小心无過逾」とは「用心をするにしくはない」とか、「石橋を叩いて渡る」との意味です。いずれにしても、日本語でも中国語でも「小心」は余り良い表現には使われておらず、「小心」に過ぎて小さく縮じ込まっては、将来の大きな成長が期待出来ないかも知れません。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第30回)

「約束」

我々は日本語で「約束」という言葉を良く使います。「約束」とは「約して、それにより拘束される」との意味ですから、「約束をする」ということは、それによって自分自身を又は相手が拘束される」とのことになります。

然し中国語で「約束」との言葉を使った場合は、拘束する意味だけの表現となり、日本語で言う所の、「ある事を取り決める」との意味の「約束をする」という意味が全くありません。中国語の「約束」とは「取り締まる」「しつける」「制約する」との意味で、「私はどんな制約も受けない」は「我不受如何約束」、「あの先生は気が弱いから、騒いでいる学生を取締ることが出来ない」は「那个老師胆很小、无法約束吵闹的学生」、また「彼は性格がふしだかだから、父親でさえ彼をちゃんとしつけることが出来ない」は「他性格不羈、連他的父親也不能約束他」となります。では日本語で我々の使う「約束」は中国語でどう表現するのでしょうか。中国語の「約」そのものが、日本語の「約束」の意味ですが、中国語では一字で物事を表現するケースが非常に少なく2字での表現となりますので、どのような表現をするかによって「約好」「約定」「約会」等の2つの文字を使っています。「我々はちゃんと約束しましたよ」という場合は「我們約好了」、「彼等2人は来年3月に結婚すると約束した」は「他們兩個人約定了明年3月結婚」、そして「私は彼と会う約束をした」は「我和他约定会面」等の表現をします。また「約束を守る」は「守約」、「約束を果たす」は「踐約」、「約束に背く」は「違約」です。「約束を破る」は「失約」ですが、「失信」という表現もあります。

日本語でもう1つ独特な使い方をしているのは、規則を守る場合に「約束」との言う表現をすることです。これは規則のことを「約束事」と言う所から来ているのでしよう。我々は良く「勝負は約束をよく守って行わねばならない」と言いますが、これは「勝負はゲームの規則を守って行わねばならない」ということと同義語で、中国語では「進行比賽必須嚴格遵守規則」と表現します。また「私は入会したら、会の約束を必ず守ります」は「我入会后、一定遵守会規」です。

更に日本語の「約束」で面白いのは、「約束手形」とか「前世の約束」とか言う表現もあることです。「約束手形」とは支払期日を取り決めた手形ですから、中国語で「期票」と言います。また「前世の約束」は「前世注定的命運」となるでしょう。

このように「約束」という言葉は、日本語では非常に幅広く使われている点が非常に面白いと思う次第です。

・
・
・

今回はちょっと話題を換えましょう。日本の食べ物のお話をします。日本語で「刺身」と言えば、生の魚や鮑等の貝類を薄く切ったものにお醤油とワサビを着けて食べる日本独特の料理で、中国語では「刺身」のことを「生魚片」と言います。

元来中国人には生のものを食べる習慣はなく、それ以上に冷たいものを食べる習慣がありません。

以前中国からアメリカへ行くJALの飛行機が大雪で成田空港に降りれず関西空港へ一時着陸したことがありました。トランジット客は入国ビザがない限り所定の成田空港以外では外へ出られません。日本人やビザを必要としない外国のお客様、台湾の人を含めて外へ出、ホテルに宿泊したり、新幹線で東京へ向かったにも関わらず、中国からのお客様はこの為に関西空港内に足止めされました。これが中国のお客様に人種差別をされたとの感じを持たせ非常に不満が高まりました。JALの方は何とか成田まで連れて行きたいと努力したのですが、大雪のため徒労に帰し、最終的に24時間後の翌日の昼にやっと成田へ向けに飛び立ちました。この間関西空港にはたくさんの飛行機が一時着陸をして混雑を極め、夜遅いために食事の手配が出来ず、JALの職員が何とかサンドイッチを手配して中国のお客様へ供しました。中国の方に冷たいものは食べない習慣があった所へ、24時間も足止めされた上に、冷たいサンドイッチだけしか提供されなかったので、非常に虐待されたと取られてしまいました。上等なサンドイッチよりも暖かいカップヌードルの方が絶対に良かった次第です。結局人種差別と虐待とのことで日中両国間の大きな問題となり、結局JALの責任者が人民大会堂で公式に謝罪する事態に至ったことがありました。

日中往来が始まった当初は、訪日された中国の代表団への最高のおもてなしとして高価な「刺身」でご接待をしましたが、誰方も箸をつけることが出来ず、また日本の懐石料理は、熱々の中国料理と違って冷たいものが多いので、余り歓迎されなかったことがありました。

今では中国の方も日本料理を理解され、刺身が大好きな方も多くおられます。中国の日本料理店ではおいしい刺身を賞味出来ますし、北京と上海にはお寿司やさんのみならず、回転寿司のお店まであるくらいです。

扨て中国語で「刺身」と言うと、入れ墨をすることや、針を身体に刺すことを意味しています。日本語の「刺身」とは全くイメージが異なります。昔中国には「黥刑」という刑罰がありましたが、これは額に入れ墨をされる刑罰です。

なぜ中国でなま物を食べないかとの理由は、古来大都市が内陸にあってなま物の輸送が出来なかったことと、また淡水魚に寄生虫がいたためと思われます。逆に中国では、魚介類を乾燥させ、それを如何に水に戻しておいしい料理を作るかに、料理人の腕が競われ、ナマコ、貝柱、鮑やフカ齧がその最たるものです。実は中国でイカの乾燥したもの（スルメです）を水に戻した料理を食べたことがありますが、これはスルメの味が強く残っており、全くイカ料理とは言えないものでした。

中国の方のほとんどは、冷たいものを好まれないので、日本料理でご接待する場合は、先ずお好みを聞く必要があります、是非気をつけて下さい。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第32回)

「工作」

日本語で「工作」と言うと、小学校時代の「工作の時間」を思い出します。紙を折り、粘土をこね、板を切って、いろいろな造形品を作るのは楽しい時間でした。若し日本語の「この子は工作が大好きです」を「這個孩子很喜歡工作」と訳すと、中国人は「この小さな子供がどんな仕事が好きなのだろう」と不思議に思うでしょう。実は中国語の「工作」は、肉体労働や精神労働に従事することで、日本語の「仕事をする」との意味だからです。

紙や粘土、板などを使って手先の技能で物を作る日本語の「工作」を中国語では、「制作」或いは「手工」と言います。従って「この子は工作が大好きです」は「這個孩子很喜歡手工」となります。

また日本語の「工作」には「特別工作員」のように、ある目的のために活動する意味もあり、この中国語では「活動」或いは「工作」となります。「特別工作員」を中国語で「特工人員」といい、「工作」が同じ意味で使われます。日本語で政治や商売の世界で「裏でいろいろと工作している」との表現がありますが、中国語で「在背后進行種々活動」或いは「在背后進行種々工作」となります。

中国語の「工作」は、日本語の「仕事をする」とか「勤務する」と言う場合にほとんど使えます。「勤務状況」は「工作状況」、「仕事中大よ、邪魔しないで」は「我正在工作、不要打攪」等です。

なお最近北朝鮮の「工作船」が日本近海へ出没しているとの報道がしばしばありますが、これをそのまま「工作船」とすると、中国語では単に貨物船等の「仕事をする船」との意味しかなく、スパイ工作をする「工作船」のイメージが出てきません。これは「特務船」とか「偵察船」との表現が適切でしょう。

日本語と中国語の言葉には今回の「工作」のように、学校の工作の場合は全く違う意味に使われるにも拘らず、ある目的のために活動する場合には同じ使い方をすると、の難しい面があることを十分に認識する必要があります。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第33回)

「質問」

今回はちょっと日本人には分かりにくい中国語の「質問」を取り上げます。「質問する」との言葉を中国語で表現する場合に、もちろん「質問」と言う場合もありますが、多くの場合に「質問」は使われず、一般的に「問」「問一問」「詢問」「疑問」等を使います。

何故日本語で「質問します」と言う時に「請問」と言い、「請質問」と言わないかというと、中国語の「質問」は「質して問う」という言葉の通り、「疑わしいことを問い質す」との意味であり、日本語でいうと「詰問する」や「責める」或いは「なじる」と言う場合に使います。

一方日本語の「質問」には「質す」との強い意味が含まれていません。単に「分からないことを問う」との意味です。従って「質問します」は中国語で「請問」となる次第です。日本語で「弁護士の質問に答える」は中国語で「回答律師的詢問」、「先生が学生の質問に答える」は「老師回答学生的問題」、「何か質問はありますか」は「有什麼疑問ma (口偏に馬)」、そして「日本料理屋は何処か教えて下さい」は、「請問一下、日本餐庁在na (口偏に那) 儿？」等です。

一方「問い質す」方の「質問」の例については、「野党が質問を提出した」が「在野党提出質問」、「相手側が何故協約を破棄したか質問する」が「質問對方為什麼破壞協議」、「質問攻めに遭う」が「遭到連珠炮似的質問」、「質問連発」が「紛紛質問」、「みんな怒って彼を責めた」が「大家憤怒地質問他」となります。言葉は異なりますが、全て疑わしいことを問い質しており、このような場合に「質問」を使っています。

日本語と同じ「質問」という言葉について、「分からないから質問する」場合と、「疑わしいから問い質す質問」の場合で、中国語では使い方に相違がある点をご認識頂きたいと考えて、この言葉を取り上げました。率直に申し上げて、中国語の勉強を始めた時に、なかなかこの「質問」の使い方の違いが分かりませんでした。いろいろな用例に直面してだんだんと理解した次第です。ご参考となったでしょうか。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第34回)

「主人」と「愛人」

「主人」という言葉は、「この店の主人は彼です」と言う場合は日本語も中国語も同じです。然し言葉のニュアンスとしては、日本語の「主人」は「この店で一番偉い人」という意味であり、中国語の「主人」は「この店の持ち主或いは所有者」との意味で使っています。意味的には同じですが、感覚的に使っているニュアンスが違う所が面白い次第です。実は昔は日本語と同じ感覚で使われていました。この場合の「主

人」に対する使用人は「補人」ですが、社会主義国家の中国ではこの言葉は使われなくなり、現在使用する場合は「持ち主」ニュアンスであるをご理解下さい。

中国語で「主人」と言うと、日本語で我々が使っている「ホスト」、即ち接待する側或いは人を言います。「奥様は我々のために非常に豪華な夕食を用意してくれた」の中国語は「女主人為我們準備了豐盛的晚餐」となります。皆さんは既に中国でご経験されたと思いますが、中国の宴会では主人側のトップ（メイン・ホスト）は扉から入った一番奥の席に座ります。日本では主賓が座る所です。正式に準備された宴会ではナプキンがいろいろな形で折っており、メイン・ホストの席はテーブルの中央に非常に高く折ったナプキンが置いてありますので直ぐ分かります。メイン・ゲストはメイン・ホストの右側に座ることに決まっており、料理は必ずメイン・ゲストからサービスされます。また客側が挨拶をして乾杯をする時は必ず「ご主人のお酒をお借りして乾杯させていただきます」との一言を言わねばなりません。これは招待を受けた側のメイン・ゲストの慣用句です。

また中国語の「主人」には「所有者」「持ち主」という意味があります。「この絵の持ち主は彼です」は「這幅画儿的主人是他」と表現します。

一方日本語の主人は、お店の一番偉い人或いは持ち主のほかに、妻が他の人に自分の夫を表現する場合に「彼は私の主人です」とか、奥様にその女性の夫を指す場合に「ご主人は何処にお勤めですか」というように使われます。以前は中国語で「夫」のことを「丈夫」と言っていましたが、現在では「愛人」が一般的で、これは「妻」の場合でも使います。「彼は私の夫です」が「他是我的愛人」、「貴女のご主人は何処にお勤めですか」が「n i (人偏に爾) 愛人在 n a (口偏に那) 儿工作」との使い方です。中国語で「丈夫」に対応する「妻」の表現を「老婆」と言い、**現在では一般に使われています**。また以前は日本語の「家内」と似ている**「内人」**という言い方もありました。

ちょっと脱線しますと、日本語に「カカア天下」という言葉がありますが、中国でも「妻は強し」で、「妻管厳」、「怕老婆」、「懼内派」「恐妻派」等々「カカア天下」についてはいろいろな表現があります。なお「気管支炎」のことを中国語で「気管炎」と言いますが、この発音が「妻管厳」と同じなので、「彼は気管支炎を患っている」と言うと「彼は恐妻家だ」と示唆していることとなり、よく中国の方との会話に「気管炎」が出てきます。因みに日本語の「愛人」のことを中国語で「情人」と言います。

・
・

中国語で誤解しないように (第35回)

「養成」

今回は我々がよく使う言葉で、日本語と中国語で全く違った使い方をする「養成」

という言葉を取り上げます。

日本語ではよく「養成」という言葉が使われます。特にオフィスに於ける従業員の養成、工場に於ける工員の養成、そして病院に於ける看護婦の養成等々、いずれも人材の養成は非常に重要です。

日本語の「養成する」は、中国で「培養」或いは「培訓」と表現します。「人材を養成する」は「培養人材」、「従業員を養成する」は「培訓職工」、そして「看護婦を養成する」は「培訓女護士」となります。日本語には「育成」という言葉もありますので、敢えて言えば日本語での「養成」「育成」が「培養」に当り、「教育を施して訓練する」という英語の「トレーニング」が「培訓」に当たると言えます。

一方中国語の「養成」は、あることを身につけることを表現し、この身につけるものは、良いことでも悪いことでも身につくものであれば両方に使われます。例えば、「良いことが身についた」は「養成了好習慣」となります。一方「悪いことが身についた」という場合は「養成了不好的習慣」となりますが、表現者のニュアンスから言えば「養成了討厭的習慣」かも知れません。悪いことが身についたと言えば、部下としては腹が立つことに「彼は部長になったら傲慢さが身についた」という事態があります。これは「他昇格到部長以后、養成了驕氣」となるでしょう。

結論的に言えば日本語の「養成」は人を対象としていますが、中国語の「養成」は人に関する事柄を対象としている次第です。

中国の「中庸」という本に「故栽者培之（故に栽者は之を培す）」という言葉があり、「培」と言う字は「栽培者が草木の根に肥えた土をかぶせて育てる」との意味を持っています。日本語で「培養」と言うと、「細菌を培養する」という表現が最もポピュラーですが、これは細菌を育てて増やすことですから、中国語の元来の意味と同じです。中国語でも、「細菌を培養する」ことを「培養細菌」と同じ使い方をします。従って「人材を育成する」ことも、草木に手をかけて育てると同じ感覚で、「手をかけて人材を教育し、訓練して育てる」とのことで、草木を育成するのと同じ「培養」という言葉が使われている次第です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第36回)

「遠慮」

「遠慮」と言う字をそのまま理解すると「遠くを慮る（おもんばかり）」という意味にで、日本語にもその通りの「遠い先々のことまで見通した考え、深い考え」との意味が存在します。然し「遠慮」にはそれ以外に、「他人に対して言葉や行動の控えめにすること」「慎み深い」との意味や、「辞退する」、そして「公の秩序を考えて相手に要求する、或いは行事を控える」との意味を持っています。

扱って通常の会話の中で「遠い先々のことまで見通した考え」との意味で、「遠慮」を使うケースはほとんどなく、たまに「遠慮に欠く」と言うくらいで、主に「深謀遠慮」の様に熟語の中で使われています。この「遠慮」の意味は、中国語の本来の意味から由来するもので、論語の衛霊公の項に「子曰く、人に遠慮なければ、必ず近き憂いあり（子曰、人无遠慮、必有近憂）」という一節があります。これは「将来のことを考えておかないと、目の前に必ず思いがけない憂いが起きる」との意味です。現在の中国語でも「遠慮」には「深くおもんばかること」とか「周到的な考え」の意味しかありません。

従って「遠慮なき批判」と言う日本語を「没遠慮的批評」と訳すと、中国人は「深く考えないで行った批判」と理解してしまいます。これは「不客氣的批評」と訳すのが適切です。なおこの「深謀遠慮（遠大な謀りごと）」も、もともとは中国語です。

これ以外の「遠慮」は全て日本語として使われているもので、「他人に対して言葉や言動を控えめにすること」や「慎み深い」との意味で、「彼は遠慮深い人だ」と言えば、中国語では「他是非常客氣的人」となり、「遠慮なくものを言う」は「不客氣地說」となります。また「今日は用があるので、招待を遠慮します」、即ち「招待を辞退します」は「今天有事、婉拒邀請」です。

「公の秩序を考えて相手に要求する」とか「行事を控える」という意味で、「車内での喫煙はご遠慮下さい」とか「喪中につき年賀状を遠慮する」との日本語があります。これは中国語で「車内請勿吸煙」とか「因在服喪、推辭賀年片」です。

なお「深謀深慮」とか「遠慮を欠く（缺乏遠慮）」との元来の中国語の意味に使う場合は、「遠慮」の「遠」に強いアクセントを置いて表現します。一方それ以外の日本語の表現の「遠慮なく頂きます」や「喫煙をご遠慮下さい」と言う場合の「遠慮」は、「遠慮」の「慮」にアクセントを置いてはっきり発言します。

面白いのは、中国語の深くものを考える「遠慮」でも、日本語の控えめにする「遠慮」でも、「遠慮」をし過ぎた場合は、仲のよい友達を失ったり、或いは何事にも踏み出せない弱腰な人と見られてしまいます。「遠慮」の場合は何事も度合いや節度を測ることが肝要という点では同じと言えます。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第37回)

「正氣」

日本語の「正氣」の反対語は「狂氣」です。従って「正氣」とは「狂っていない、まともな精神」との意味です。この場合の発音は「しょうき」です。これに対して中国語の「正氣」の反対語は「邪氣」で、「邪氣のない正しい氣風」との意味です。確かに「正氣」の2字だけから見れば日中それぞれその言葉の意味が正当性を持っている

るにも拘らず、この様に意味が異なるのは面白い次第です。

日本語の「正気」を中国語では「理知」或いは「清醒的頭腦」で表します。「正気を失わずにいる」は「没有失去理知」と表現し、「正気に返ってみると、事の重大さに驚いた」は「清醒過來、对事態的嚴重性吃了一驚了」となります。2005年4月に中国で起こった大使館や総領事館への投石デモや11月にフランス各地で起こった放火デモを起した人達（若者が中心と言われています）が「正気」に戻った際に感じたことかも知れません。

これ以外に「彼を正気に戻す」とか「この様な狂った世界の中で正気を保つのは非常に難しい」等の使い方があります。中国語では「把他清醒過來」とか、「在這樣瘋狂的世界裏、保持理知是非常困難的」或いは「保持健全的精神是非常困難的」となります。

中国語で「正気」が使われるケースとして、「正しい気風が失われ、邪悪な気風が起こってきた」があり、これは「正気失去、邪氣興起来」と表現します。古来中国では「正気」のことを「万物の根源である氣、天地間にある正大且つ公明な氣」と考えられており、宋の文天祥が元に捕らえられ獄中にあった時に作った忠君愛国の詩「正気歌」が有名です。

なお日本語で「正気」のことを「せいき」と読む場合があります。この「せいき」と発音した場合が中国語の「正気」と同じ意味を表しています。従って「正気歌」は「せいきか」が正しい読み方です。「しょうき」と「せいき」を考えると、日本語を正しく勉強するのはたいへんなことかも知れません。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第38回)

「暗算」

日本では「九九」を暗算で勉強します。また算盤の上手な人は頭の中で算盤を弾いて非常に桁の多い数字をたくさん一挙に暗算して、見ている人を驚かせます。またインドでは現在2桁の「九九」を暗算出来るように勉強させている由で、いずれにせよ日本語で「暗算」と言うのは、頭の中で数字の加減乗除を計算することを意味しています。

一方中国語の「暗算」には全くこの様な意味はありません。「暗」は「暗里（陰で或いは裏で）」の「暗」、「算」は「算計（たくらみ）」の「算」とのことで、裏でたくらむとの意味ですから、「陰謀をめぐらす」とか「計略にかける」との意味になります。「敵の計略にかからない様に十分注意しなければならない」とか、「彼等は君を陥れようとしている」の場合に使われ、「**非常注意不被敵人暗算**」とか「他們在暗算ni（人偏に爾）」となります。

なお「算計」には「たくらむ、陥れる」等の意味以外に、「数をつみあげるとか、計算に入れる或いは考慮する」等の意味があります。従って「数をつみあげても余り多くは違わなかった（算計着差不了許多）」、「この件はもっと考慮する必要がある（這件事還得算計）」、或いは「計算の及ばないこと（算計不到的事）」との使い方もされています。

では日本語の「暗算」を中国語ではどう表現するかといいますと、日本語の「暗」は暗い所というより、心の中での意味ですから、中国語では「心中」であり、また「算」は計算するの「算」ですから、「暗算」は「心算」となります。

実は「暗里計算（ひそかに計算する）」とも言えるので、日本語の「暗算」として使い方はないのかと中日大辞典を調べてみましたが、「暗算」には明確に「ひそかに人を害する、だまし討ちにする」、「こそこそたくらんで騙し取ろうとする」との意味であると書かれており、日本語の「暗算」という意味は全くありませんでした。即ち「彼の死はやはり騙し討ちであったのだ（他的死原来是被人暗算的）」或いは「彼は我々の馬2頭を狙っている（他在暗算我們的兩頭馬）」等の使い方です。

なお中国語の心の中は「心中」であると述べましたが、日本語の「心中」は2つの読み方があり、「しんちゅう」と発音すると「心中に期するものがある」との表現の通り「心の中」の意味ですが、「しんじゅう」と発音すると「愛人と心中」とか「母子心中」「一家心中」の様に「情死」或いは「二人以上の自殺」の場合に使われています。余計なことになりましたが申し添えます。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第39回）

「打算」

前回は「暗算」という言葉を出しましたので、今回は「打算」について述べたいと思います。日本語の「打算」には、「打算的である」の様に利害・損得を考慮することや計算高い或いは勘定高いことを意味しています。一方中国語の「打算」は「・・・をする積もりである」「・・・をしようと思う」との意味であり、それから転じて「計画する、計画がある」との使われ方もします。

従って「自分の利益に関わってくると、彼は非常に打算的になる」を「与自己的利益有關時、他成為非常打算」と中国語に訳すと全く意味が通じません。「与自己的利益有關時、他成為非常自私自利」と訳するのが適当です。日本語の「打算」の中国語訳には「盤算」とか「算計」があり、「盤算」は「算盤をはじく、計算する、胸算用する」等の意味があり、「算計」には前回説明した通り「たくらむ、陥れる」との意味と併せて、「計算に入れる、考慮する、数をつみあげる」等の意味があります。それぞれ日本語の「打算」の場合に使われます。

然し日本語の場合は「打算」より「彼は打算的である」と言うように、「打算的」の方が普遍しており、「打算的」に見合う中国語は、「自私自利」や「打小算盤」です。「自私自利」は自分の損得しか考えない我利我利亡者のことであり、また「打小算盤」は小さな算盤をはじくとのことで、心の中で自分の損得を計算していることを意味しています。

「打算」という字から見れば何か計算する様に見えますが、中国語の「打算」には「・・・するつもり」とか「計画がある」との意味で、日本語のような自分の損得を計算をする悪い意味は全くありません。中国語の「打算」は、「今晚は暇があるので、一杯呑みに行くつもりだ（今天晚上有閑工夫、打算喝酒去）」、「各人それぞれに考え方があり（各人有各人自己的打算）」、「彼は本当に中国へ行くつもりがあるのかどうか（他到底打算不打算到中国去）」、「夏休みに貴方はどんな計画があるのか（在暑假期間、n i [人偏に爾] 有什麼打算）」等々の使われ方をします。漢字で書けば同じ言葉でも、日本と中国でこれだけの差がある次第です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第40回)

「出頭」

日本語で「出頭する」というと、「警察へ出頭する」とか「裁判所へ出頭する」とか、命令を受けて役所等へ足を運ぶ意味となっており、これは明治時代からの「官尊民卑」の風習が残った言葉といえます。現在使われている日本語で「出頭する」と言えばこれ以外の意味はありません。さすがに中国語ではその様な表現の仕方はしておらず、「警察に出頭する」は「前往公安局」或いは「到公安局去」です。

中国語の「出頭」には、お役所へ出かけるとの意味は全くありませんが、下記のようにいろいろな使われ方をしています。

- ① 出世する、群を抜いている、勢力を得る、日の目を見る： 解放後工農大衆がやっと日の目を見る事が出来た（解放后、工農大衆才能出頭了）、彼の成績は群を抜いている（他的成績出頭）、彼は会社で出世した（他在公司里出頭了）、品質がよいと値も張る（貨高価出頭）。
- ② 顔を出す、代表者となる、： 貴方が顔を出して調停して下さい（請n i [人偏に爾] 出頭、調停b a [口偏に巴]）、私が彼の代りに顔を出して本件を処理する（我替他出頭处理這件事）、発起人（出頭的）。
- ③ 表面に立つ、人前に顔を出す： いまどき表面に立つようなことを絶対にやってはいけない（現在出頭露面的事情、万万做不得）、何にでも私が顔を出さねばならない（什麼事都得我出頭露面！）。
- ④ ある数量以上となる、・・・余り、・・・以上： 1万元以上（一万元出頭）、3ヶ

月余りになる(有3个月出頭了)、50余り(五十出頭)。

「出頭」は頭が出ることです。従って中国語の「出頭」の意味は上或いは表面に頭を出すことなので良く理解出来ますが、日本のお役所へ顔を出すのが何故「出頭」なのか理解に苦しむ所です。或いは「官尊民卑」の時代にお役所に顔を出す際は、必ず帽子を脱ぎ、頭を下げて入って行くので、お役人の方から民間人がお役所に入って来るのを見た場合に、頭が入口から出てくるように感じたのかも知れません。いずれにせよ日本語の「出頭」は余り好ましい言葉とは言えません。

・
・
・

中国語で誤解しないように(第41回)

「料理」

日本語で「料理」というと食べる料理しか考えられません。「料理をする」は美味しくものを食べられるように食材に手を加えることですし、「料理店」は食事を供する店、「料理人」はお料理を作る人(職人)の意味です。然し“新明解国語辞典”を見ると「物事をうまく処理すること」との意味が入っています。然し我々の日常会話では余り使われていません。敢えて言えば「彼をうまく料理してやる」という表現がありますが、これはこちらが強い立場にあり、食材に手を加えて自分の好みにあった料理を作る様に、思うがままに相手を操ってやっつけるとの意味で使うくらいです。

然し中国語で「料理」と言うと、日本語では現在余り使われていない「物事を処理する」とか「物事を整理する」との意味だけで、日本語の“美味しい料理”とか“料理を作る”等の意味は全くありません。「料」には名詞として材料、処方箋で作った一定量の薬、そしてろくでなし等の意味があり、動詞としては推し量る、見計らう、等の意味があります。「理」には名詞としては“道理”“条理”や“きめ”、動詞としては“処理する”“取り扱う”“整理する”等の意味があります。従って「料理」は単に物事を処理するとの意味ではなく、「いろいろ考えて処理する」との意味があることが分かります。従って単に「物事を処理する」と言うより「物事をきりもりする」との意味合いの方が適切かとも思われ、この差が中国語の「処理」と「料理」の表現の差になると思われます。

日本語の「料理」は皆様も良くご存じの通り、中国料理は「中国菜」、家庭料理は「家常菜」、料理店は「菜館儿」又は「飯館儿」、料理人は「做菜的人」ですが一般的には「厨师」です。彼は料理がたいへん上手は「他很擅长做菜」、豚肉を料理するは「用肉做菜」又は「用猪肉做菜」です。なお料理するとの表現には「做菜」と併せて「烹調」との言い方もあります。

一方中国語の「料理」の使い方としては、国政を処理するが「料理国政」、家計のきりもりをするが「料理家务」があります。然しこの件は彼に処理を任すは「這件事

交給他処理」、彼は手際良く処理したは「他処理得很漂亮」と表現しますので、やはり「料理」には「きりもりする」とのケースの場合に使われるようです。

ご参考までですが、「料」の“材料”としての使い方は「衣料」「飼料」「燃料」があり、“一定量の薬”の使い方は「一料薬（一服の薬）」「吃了半料就好了（薬半分を服用したら直ぐ良くなった）」があります。また“推し量る”“見計らう”の使い方には「預料（予想する）」「不料（計らずも）」「料不到（思いもおよばなかった）」等皆様が日常使っている言葉です。

また「理」の方は、“道理”や“条理”には「按道理説（道理から言えば）」「理所当然（理の当然）」「有条有理（条理に適っている）」があり、“きめ”には「木理（木目）」「肌理（肌のきめ）」があります。“処理する”“取り扱う”はひとつだけ「受理（受理する）」を例として挙げます。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第42回）

「一定」

日本語の「一定」の反対語は「不定」です。従って「一定」とは、「定まって動かないこと」「定まった状態にすること」「予め決まっていること」「特定の」等を意味しています。“温度を一定する”“一定の方針”がこれに当たります。また面白いのは「不定」の反対語でありながら、漠然とした表現にも使われることで、「必ずしもそうではないがある程度の」、或いは「かなりの」「相当の」「それなりの」の意味で、“一定の成果を挙げる”、“一定の役割を果たす”、そして「それなりに相当な理由がある」との表現に使われています。日本語の「温度を一定する」は、中国語で「規定統一的温度」と表現しますが、日本語の「一定する」は動詞としての使い方です。

一方中国語には、日本語と同義語の「ある程度の」「かなりの」「それなりに相当な」の場合や「一定の」「特定の」との場合に使われると共に、「きっと」「必ず」「是非とも」との意味があるのが特徴で、これ等の語句は副詞です。

中国語で「彼はきっと来る」は「他一定来」、「必ずこの様でなければならない」は「一定得這個様子」、「是非ともこの設備を修理しなければならない」は「一定要把这个設備修好」です。日本語と同義語の方は、「彼はある程度の成果を挙げた」は「他作出了一定的成果」、「彼はかなりの成績を取った」は「他取得了一定的成績」であり、また「それなりに相当の理由がある」は「有一定的理由」と表現します。また「一定の」や「特定の」の用例としては、「一定の方針（一定的方針）」や「この生活様式は特定の民族に属している（這個生活様式属于一定的民族）」との使い方があり、また「一定不変の真理」は「一定不易之真理」と表現します。

今回「一定」を取り上げたのは、我々の中国語会話で良く「明日必ず来てね！（請

n i [人偏に爾] 明天一定来啊と「一定」を「きっと」或いは

「必ず」と副詞としての使い方をしますが、日本語の「一定」には副詞としての使い方がなく、一方日本語は例えば「学生の服装を一定する(規定学生的服装)」と「一定」を動詞として使いますが、中国語には動詞としての使い方がありません。

なお漢和辞典を調べましたら、用例の最後の「必ず」「きっと」との意味が掲載されていましたが、国語辞典の方にはこの用例の掲載がありませんでした。

・
・
・

中国語で誤解しないように(第43回)

「運転」

日本語の「運転」は、「自動車を運転する」とか「設備を運転する」等、機械設備類を手を使って動かす時に使います。従って人が手を使わないで機械設備類を動かす時には敢えて「自動運転」という言葉があります。もう一つの使い方は「運転資金が必要である」とか「資金運転がたいへん良い」と言うように“やりくりするお金”の場合に使います。機械設備類の場合もお金の場合も人の手(或いは人の意思)を使って動かす時に使うのが特徴です。

一方中国語の「運転」は「動く」「回転する」「運行する」と自動詞としての使い方が特徴で、他動詞としては使いません。従って「自動車を運転する」は「開汽車」であり、「設備を運転する」は「開動設備」となります。自動詞としての使い方は、「機械が良く運転している」は「機械運転得很好」、「設備が止まらずに動いている(設備不停地運転)」であり、また「惑星はみな太陽を巡って運行している」と言う場合は「行星都繞着太陽運転」と表現します。

「運転資金」は中国語で「周転資金」或いは「流動資金」です。資金を運転する場合の「運転」には、「周転」及び日本語も同じですが「運用」等を使います。「運転資金が必要である」は「需要流動資金」、「資金運転がたいへん良い」は「資金周転得很好」等です。

その他「運転」に関連した中国語としては、「安全運転(安全行車)」、「自動車の運転手(開車司机)」、「運転免許証(駕駛執照)」があります。日本語では「運転」にたくさんの使い方がありますが、中国語の場合は名詞及び自動詞なので、使い方が少なく、「開」「開動」「周転」等の語彙を使います。

・
・
・

中国語で誤解しないように(第44回)

「一体」

日本語の「一体」にはたくさんの使い方があります。“仏像を1体、2体と数える数詞”、“皆が一体となって働くとの、全体が一つに纏まることを意味する言葉”、“今年是一体に寒いと、平均的な表現をする言葉”、“一体が丈夫な人ではなかったと言う、根本に溯って原因を突き止めた表現をする際の言葉”、“一体全体ここで何をしているのかと言う、基本的に立場を反省させる際の強調表現”等々です。

一方中国語の「一体」には、“みな同様に”とか“全体に”との意味と“全員が一つの纏まりになる”との意味しかりません。この点が日本語と大きな違いです。従って中国語の「一体」の用例として、“全体に”の意味では「一体周知（全員に周知させる）」との表現があり、これは行政用語として「ここに布告して全体に周知せしめる（合行布告、一体周知）」との使われ方をしていました。また“全員が一つに纏まる”の用例としては、「我々は海外各国と一体となって平和を推進する」の「**我們和世界**各国結成一体推進和平」があります。

扱ってそれ以外の日本語の「一体」を中国語でどのように表現しているのかを述べてみましょう。先ず「一体の仏像」は「一尊佛象」です。なお日本語では死体も1体、2体と「体」を数詞として使いますが、死体に対する中国語の数詞は「具」で、「一体の死体」は「一具尸体」となります。

その他、「今年是一体に寒い」は「今年**普遍**較冷」、また「彼は一体が丈夫な人ではなかった」との根本に溯って原因を突き止めた表現をする用例としては「他本来身体就不結実」です。最後の我々が会話で良く使う「一体全体……」や「一体……」と話を強調する際の例としては、「一体全体ここで何をしているのか」が「究竟在这里做什么」、そして「貴方は一体どうする積もりですか」は「**n i**（人偏に爾）到底打算怎麼辦」となります。

元来「一体」との漢字から来る意味は「一つにまとまる」とのことですから、中国語の表現の方が非常に妥当と思われ、何故日本語にはこのようないろいろな表現があるのかが不明ですが、或いは「いったい」と話言葉として使われていたものに、敢えて「一体」という漢字を当てはめたのかも知れません。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第45回）

「皮肉」

日本語で「皮肉」というと、我々は一般的に「皮肉を言う」との使い方しかしておりません。この場合の「皮肉」の意味は「あてこすり」や「いやみ」であり、解釈をすると「間接的な意地の悪い非難」となります。また「皮肉な結果であった」という言葉があり、これは物事が案に相違した結果となったとの表現です。

一方中国語の「皮肉」はその文字通りの「皮と肉」、そしてそれから転じた「からだ、肉体」の意味しかありません。例えば「受皮肉之苦」で、これは「肉体的な苦痛を受ける」との意味です。

日本語の「皮肉を言う」の「皮肉」の中国語は、「諷刺」「訛笑」「w a 苦 (w a の字は“控”の字の中の“エ”の箇所が“乙”の字)」等です。その用例としては、「彼はよく皮肉の言葉を使う」が「他很愛說諷刺話」、「皮肉な笑みを浮かべる」が「臉上露出訛笑」、そして「あの人は皮肉の名人だ」が「他以挖苦人而聞名」、「皮肉を言うな」が「別w a 苦人」で、この“w a”は同上の字です。また「これは皮肉な結果であった」は「這是料不的的結果」、「これは何たる皮肉なことだろう」は「這是多麼令人啼笑皆非 a (a は口偏に阿)」となります。

なお現在余り使われていませんが、日本語の「皮肉」にも当然中国語と同じ「皮と肉」、そしてそれが転じた「からだ、肉体」の意味があります。また“骨や髓”に達していないことから「からだの表面」との意味があります。松永貞徳と言う人が1644年に口述した師匠の恩を綴った「戴恩記」という歌学書(2巻2冊)の中に「年老いて稽古しがたき故、今に皮肉の間にかかずらい侍るものなり」との記載があります(広辞苑より)。

では何故“あてこすり”や“いやみ”を言う場合に「皮肉」を動詞化した「皮肉を言う」との表現が出来たのかは分かりませんが、皮肉を言われると直接非難をされた場合と異なって怒るに怒れず、感じとして皮膚の内側がむずむずするところから、このような表現が生まれたのかも知れません。

なお中国語には「帶皮肉」と言う料理の言葉があります。これは「皮付の豚肉」ということで、著名な料理としては北宋の詩人で杭州の長官をした“蘇東坡”が発明したという“東坡肉”があります。これは日本でいう“豚の角煮”で皮付の豚肉を料理したものです。またこれは隠語かも知れませんが「皮肉」には「売春」という意味があり、「皮肉生意」とは「売春をする」との意味です。

「皮肉」を使った言葉として「皮松肉緊」があり、これは“はきはきしない態度”の形容で、「他這麼皮松肉緊地做事、我真不高興(彼がこんなにぐずぐずと仕事をすると、本当に不愉快だ)」とか「這個孩子皮松肉緊(この子はぐずだ)」との表現をします。また「皮笑肉不笑」という言葉もあり、“作り笑いをする”とか“にが笑いをする”との意味で、「彼の話に対して、自分はにが笑いをするしかなかった(對他說的話、我只好皮笑肉不笑)」と使います。

「皮肉」と言う言葉について非常に長い説明となってしまいましたが、これも皮肉なことでした。

・
・
・

「改行」

日本語で「改行」は、行を改めて文章を書き始めることで、パソコンやワープロのキーとなっており、皆さんがよくご存知の言葉です。中国語の「改行」にもこの意味はあります。然し中国語では単に「改行」とは言わず、「別」の字の左側に似た字で同じ「別」という意味を持つ、「另」の字を使い、「另起一行」と言います。「別に新しく行を起こす」と丁寧に表示する次第です。従って「ここで改行せよ」は「這里另起一行」であり、また「段落で改行する」は「按文章的段落、另起一行」との使い方をします。

この「行」は日本語で「ぎょう」と発音するように、文章の「一行」「二行」を表しており、この「行」の発音は「H a n g」です。「一行字（一行の字）」「兩行樹（二列の樹木）」等で、また「行間を開ける（打開字行的距離）」や「作者の熱意が行間に溢れている（字里行間洋溢着作者的激情）」があり、また我々がよく使っている「文章の行間の意味を読む」との言葉は、「領会文章的所表現的實質意思」となります。これ以外で「行列」もこの範疇であり、「行列を作る（排隊）」や、「提灯行列（提灯游行）」等です。

日本語で「行」を「こう」と発音する場合があります。これは「行く」や「行い」を意味する場合で、中国語の発音は「X i n g」です。「人行道（人道）」、「上行車（上り列車）」等です。日本語の「行く」や「行い」はいろいろな使われ方をします。「行く」には、「学校へ行く（上学去）」、「会社へ行く（上班去）」、「社会主義の道に行く（走社会主義道路）」、「年端も行かないのにうまいものだ（年紀雖然小、却做得很好）」、「満足が行く（感到満足）」、「納得行く（可以理解）」、「そうは行かない（那可不行）」等多々あります。

「行い」を示すものとしては、「お嫁に行く（出嫁）」、「この仕事をやって行くことにした（決定把這个工作做下去）」、「善行を施す（做好事）」、「悪行を働く（做壞事）」、「奇行を働く人だ（他是行為古怪的人）」、「小雨の中で試合を強行する（在小雨中堅持比賽）」、「凶行現場（行凶的現場）」等々があります。

また中国語で「X i n g」と発音した場合に、「よろしい、大丈夫」や「差し支えない」、「もう結構だ、十分だ」の意味があり、「行不行？（いいですか?）」とか「この天気はもう大丈夫だ、雨にならない（天氣行了、不至于再下雨了）」、「よろしい、彼さえ居れば大丈夫だ（行！、他在這里就行了）」等の使い方をします。

扨てここからが中国語の「改行」の説明です。日本語の「行」には、職場や仕事を表す言葉としての「行」があり、発音は「H a n g」です。中国語でその代表的なものが「銀行」です。この意味を踏まえたものが中国語の「改行」で、「職場や仕事を変える」との意味があり、例として「今までの專業を放棄して、商売に轉業する（放棄原来的專業、改行做生意）」や「今の仕事は素晴らしいじゃないか、何故仕事を変えるのか？（現在的工作不是很好嗎？為什麼改行呢）」。

結論的にいうと、「改行」は日本語では「文章の行を変える」ことであり、中国語

では「仕事を変える」ことです。また「行」と言う字が日本語では非常に広範囲に使われおり、些か長くなりましたが、その点と併せて説明しました。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第47回)

「喧嘩」

「喧嘩と火事は江戸の花」との言葉があります。江戸っ子は気が短かいので、ちょっとしたことで直ぐに喧嘩が始まったのでしょう。一方中国の劇場で「場内禁止喧嘩」という標識があります。これを見た日本人は「中国人は場所を構わず映画館の中でも喧嘩をするのだな」と誤解するかも知れません。然し中国語の「喧嘩」は「大きな声を出す、やかましく騒ぐこと」を意味しており、日本語の「喧嘩をする」との意味は全くありません。「場内禁止喧嘩」とは「場内は静粛に」との意味です。

もっとも日本語の漢和辞典では、「喧」の字は「やかましい、騒々しい、大声を立ててわめきまわる」の意味で、「嘩」の字も「やかましい、騒々しい」の意味です。

「喧嘩」はこの二つを合わせた熟語なので、当然「やかましく騒ぐ、やかましく言い立てる」との中国語と同じ意味が第一義となっており、第二義として「争い、いさかい」が出ています。面白いことに国語辞典の方では「互いに自分が正しいと譲らず相手を激しく非難し合ったり、殴り合ったりすること」と、所謂我々が言う「喧嘩」の意味だけで、「やかましい、騒々しい」との意味は出ていません。やはり「喧嘩と火事は江戸の花」で、江戸っ子は気が短かく、騒々しい口論の結果、殴り合いになったので、このような争いを「喧嘩」という習慣が定着したのかも知れません。

では日本語の「喧嘩」を中国語ではどう表現しているかとのことです。「喧嘩」の中国語訳は「吵嘴」、「打架」、「争吵」などがあります。この「吵」は、「やかましい、口喧嘩をする」の意味があり、また「架」には「置く、掛ける」との一般的な意味の他に、「喧嘩する、殴り合う」との意味があります。例としては「つまらないことで喧嘩する(因為小事吵架)や「喧嘩のとぼっちりをくった(因別人打架受牽連)」があります。また日本語でよく使われる例としては、「喧嘩を分ける(勸架)」、「喧嘩を買う(有架就打、替別人打架)」、「喧嘩早い(好打架、動不動就打架)」等があります。

中国の町角でよく見られる風景ですが、二人が大声で言い争っており、たくさんの人だかりが出来ています。両者は決して手は出さず自分が如何に正しいかを声高に申し立てており、時には廻りの見物人が即席裁判官と化して口を出すこともあるそうです。中国では道理で相手を納得させるのがよい喧嘩で、正当な理由がいくらあっても暴力を振るうことは最低とされています。

実際に見たことはありませんが、中国の面白い習慣は「夫婦喧嘩」で、奥さんが外に出て、近所の人前で「如何に亭主が悪いか」とのことを延々と大声で申し立てる

そうです。結局亭主はきまりが悪く女房に謝らざるを得ないというのですが、若しこれが日本で起こったら、その奥さんは何と言われるのか面白い所です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第48回)

「手抜」

最近日本ではマンションの耐震構造に関する設計計算の偽造と、それに合わせた建築工事の手抜きが大きな話題となっています。しなければならない手続きや手数を省くことを日本語では「手抜き」と言っています。然し中国語では「手抜」といった場合に「手を使ってあるものを抜く」との、文字の通りの意味しかありません。例えば「手で草を抜く (用手抜草)」との表現です。

日本語で「手抜」といった場合、「手抜き」と「手抜き」の二つの言葉があります。「手抜き」の意味は前出の通りですが、「手抜き」は不注意のための手落ちを意味しています。「手抜き」の例としては、「手抜き」が「偷工」で、「建築面で手抜き工事がある (建築上有偷工減料之処)」です。また汚職や現場管理の不徹底による手抜き工事で、「豆腐のような不安定な土壌の上に建てる手抜き工事」というのがありますが、これを中国語では「おからの上の工事」と表現し、「豆腐渣工程」といっています。一方「手抜き」の例としては、「この調査に手抜きがあった (这个調査有漏洞)」、「手抜きなく警戒する (嚴密戒備)」、「手抜きだらけ (漏洞百出)」等があります。

最近話題となったのはマンションの設計計算偽造の例ですが、その他最近日本でよく報道されているのは、老人が一人で住んでいる一軒家へ顔を出して、「お宅は耐震上弱い箇所がある」といい、法外な料金をとって何の役にも立たない見せかけの強化工事をする詐欺事件ですが、これは「手抜き工事」を上回る悪行です。

然し一番怖いのは公金横領などの汚職による公共工事の手抜きで、一度災害が起こると大多数の人が犠牲になります。これは仄聞した例ですが、1999年1月に重慶市で「彩虹橋」が崩壊し、40人の死者を出した大惨事があったとのこと。この原因が手抜き工事であったと言われており、今後決してこのようなことが起こらないことを願っている次第です。

・
・
・

中国語で誤解しないように (第49回)

「階段」

日本語で「階段」というと、駅の階段とかビルや家の階段で、「一階から二階へ上がる階段」を意味しています。従って若し「這項工作分階段進行」という中国語を見ると、日本人は「この仕事は階段を複数作って、それぞれ別々に仕事を進める」と理解してしまう恐れがありますが、実際は「この仕事は段階を分けて進める」との意味で、中国語の「階段」は、日本語ではその字が逆さになった「段階」の意味です。

駅の階段、ビルや家の階段は、中国語では「樓梯」或いは「台階」といいます。用例としては「一階から二階へ上がる階段」は「從一樓到二樓的樓梯」といい、「駅の階段を上がる」は「上車站的樓梯」となります。その他「エレベーターより階段を使う（不坐電梯、走樓梯）」、「高層ビルも階段は備えていなければならない（在高樓大廈也要備有樓梯）」等です。

中国語の「階段」は、物事やプロジェクトを幾つかの段階に分けて行うことに使われ、日本語の順を追って進む「階段」を意味する中国語は、「等級」や「步驟」で表現されます。幾つかの段階に分けて行う用例は、「新しい段階に高めた（提高到新段階）」、「この仕事は三つの段階に分けて行う（把這个工作分三個階段進行）」、

「現在まだ初級の段階にある（現在還在初級的階段）」等です。また順を追って進む例としては、「段階を追って進む（有步驟地進行）」、「彼は一つ一つ段階を経て部長の地位に到達した（他一步一步爬到部長的職位）」、「段階を分ける（分等級）」等があります。

今回の中国語の「階段」が日本語で「段階」であるような、二字熟語が日本語と中国語で逆さになった例がまだまだあるのではと思います。例えば日本語の「兄弟」は中国語でも「兄弟」ですが、「弟兄」も日本語の「兄弟」を意味しており、また中国語で「達到」といば日本語で「達成する」との意味ですが、「到達する」との意味も持っています。

・
・
・

中国語で誤解しないように（第50回）

「我慢」

日本語での「我慢」は、「耐え忍ぶこと」や「自分を抑えて相手を許すこと」を意味しています。中国の一番有名な「我慢」には「韓信の股くぐり」があります。韓信は漢初の有名な武将で、蕭何、張良と共に「漢の三傑」と言われた人です。漢の高祖仕え、大將軍、そして楚王に封じられた傑物ですが、若い時にやくざに絡まれ、辱められてその股くぐりを強要されたが、自分の将来の大望を考え我慢して股くぐりを行った逸話で有名な人です。

「我慢」の中国語訳には「忍耐」「容忍」「自制」「原諒」「將就」などがあります。だいたい字をみると意味する所を理解できますが、「將就」だけは日本人に意味

の推察が難しいでしょう。「将就」の用例には「求人得将就（人に物を頼むには、何事も我慢しなければならない）」、「冷是冷、還可以将就（寒いことは寒いですが、まだ何とか我慢出来る）」、「将就不下去（これ以上我慢しきれない）等があります。なお「将就」には「間に合わせる」との意味もあり、「我的中国話能g o u将就說得上来了（私の中国語はどうかこうにか話せるようになりました）」との表現です。この「g o u」の字は、句偏に多という字です。

その他の語句の用例としては、「忍耐一下（ひとまず我慢しておく）」、「已經到了不可容忍的地步（既に我慢出来ないところまで来ている）」、「自制心強的人（自分で我慢出来る心が強い人）」、「他对待我非常勵害、這次原諒他、但下不為例（彼は私にたいへんひどい、今回は我慢してやるが次は許さない）」等の使いい方があります。

扱て中国語の「我慢」には「私はゆっくり行こう、私はおそい」との以外に意味はありません。「他做得很快、比他我慢（彼の仕事はたいへん早いですが、私は彼に比べてゆっくりだ）」との表現です。この「我慢」だけは、同じ漢字であるにもかかわらず、意味が全く違うのに驚かされます。

日本語には、耐え忍ぶという「忍耐」や自分を抑制する「自制」等の言葉があるのに、何故「我慢」がその意味に使われるのか、その故事来歴は分かりません。「慢」の字には「侮る、驕る、怠ける、気まま、ゆるむ、ゆっくり」等々余り良い意味がありません。それに自分を意味する「我」がその前に付いています。実際に漢和辞典をみると「我慢」には仏教語として「自分の才能をたのんで他人を押しつける」との意味があり、また「我意を張る、片意地」との意味が記載され、最後に「許す」と記載されています。従って「耐え忍ぶ」や「自制して他人を許す」との意味の言葉が、何故「我慢」として現代社会で使われるようになったのでしょうか。若しご存知の方がおられたら是非教えて下さい。

日本では上司と部下、先輩と後輩、近所付き合い等々、人間関係が非常に厳しい環境にあり、かかる環境の中で育てられた日本人は比較的我慢強い性格を持っています。然し現代では我慢に我慢を重ねるとストレスが溜まり、それが限界になると回復不能の病気となってしまうので注意する必要があります。とは言え、人生には対応が難しく、我慢出来ないことがいろいろと起こりますので、「ならぬ堪忍、するが堪忍」の精神を以って、狭い日本の社会の中で他の人との和を保てるよう、ストレスは溜めずに解消を図って出来るだけ頑張りましょう。何しろ日本では「我慢は美德」と言われています。

・
・
・